



町制 90 周年～これからわたしたちがしたいこと～ 第 15 回 葉山まちづくり展

葉山の仲間たち
特報!

主催：葉山まちづくり展実行委員会、NPO 法人葉山まちづくり協会 ●葉山町（委託事業）

7/3（金）～7/5（日） 10時～17時（最終日は16時）

会場：葉山町福祉文化会館 大会議室・ホール・ホワイエ

葉山町でまちづくり活動を行っている団体の
パネル展示やイベントの開催

今年 は葉山町制施行 90 周年にちなんだ展示
「葉山の歴史と暮らし」に注目！

● 展示と同日のイベント

◎7月4日（土）13:00～15:00

特別講演会「『認知症』てなあ～に」
（主催：葉山まちづくり展実行委員会、NPO 法人葉山まちづくり協会）
会場：葉山町福祉文化会館ホール

東京都高齢者医療センター理事長・センター長の井藤英喜先生による、認知症についての特別講演

◎7月5日（日）14:00～16:00

トークショー
「先端のライフスタイルがある『葉山文化圏』」
（主催：トランジション葉山・葉山まちづくり展実行委員会）
会場：葉山町福祉文化会館ホールまたはホワイエ

出演：葉山町長 山梨崇仁氏、柳瀬博一氏（日経ビジネスステップ企画プロデューサー）、猪俣博史氏（カメラマン）
話題提供：清野由美氏（ジャーナリスト）

◎7月4日（土）～5日（日）

葉山町手をつなぐ育成会・物品販売
（主催：葉山町手をつなぐ育成会）

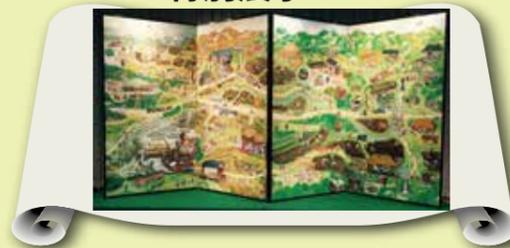
障害者団体等が製造・制作する製品等の販売

◎7月3日（金）～5日（日）11:00～15:00

等身大の自分を感じましょう 動物介在教育・乗馬教室
（主催：湘南国際村ランドスケープ集団）
会場：まみあな馬牧場

期間内は引き馬 500 円 参加者全員に「無料体験招待券」
（期間内使用不可）を差し上げます

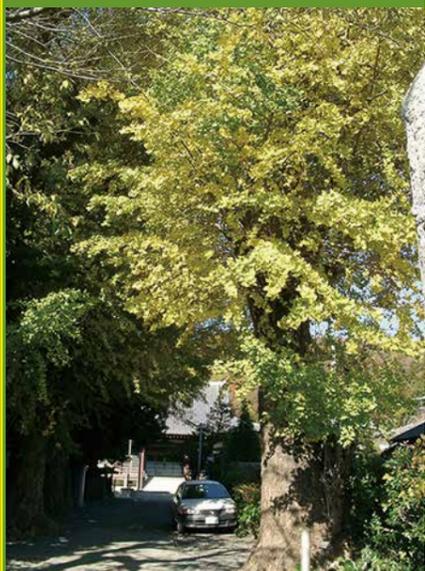
昭和 30 年代の木古庭、上山口の風景や暮らしの様子を描いた
**「葉山ふるさと絵屏風」
特別展示!**



紅葉（もみじ） ◎大昌寺・上山口
樹高9.5m 幹回り2.16m 樹齢100年以上
枝ぶりがすばらしい。



飛梅榎（ひびやくしん）
◎森戸大明神
樹高15m 幹回り4m 樹齢800年
（推定） 森戸海岸から見る迫力ある
幹と枝が見事。

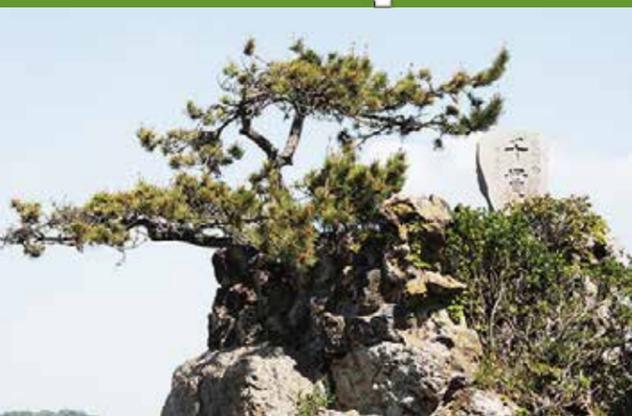


银杏（いちょう）
◎玉蔵院・一色
樹高23m 幹回り3.2m
樹形が整い、風格ある巨木が
参道に並ぶ。

**第15回
葉山まちづくり展**
日時：7月3日（金）～7月5日（日）
10時～17時（最終日は16時まで）
場所：葉山町福祉文化会館・大会議室



常緑樹林 ◎新善光寺・上山口
新善光寺本堂背後のなだらかな丘にある常緑樹林。禅宗様式の手法で建立された本堂と緑のコントラストが美しい。



千貫松（せんがんまつ） ◎堀内
森戸神社裏、磯辺の切り立つ岩上にある松。源頼朝公が衣笠城に向かう途中、岩上の松を見て「いかにも珍しき松よ」とほめたところ出迎えた和田義盛が「千貫の値ありとて千貫松と呼びて候」と答えたといういわれがある。



榎（かや） ◎永嶋家・木古庭
樹高23m 幹回り3.4m
堂々とそびえる巨木。

葉山の名木・古木
雄渾な姿に悠久を感じる
町には天然記念物に指定されている樹木だけではなく、目と心を引くすばらしい樹木がたくさんある。さあ、自分の足で見つけよう！

ふとした機縁に木々を巡り、そして歴史を知る。
生き続ける名木・古木に心をうばわれる。

● 別日程のイベント

◎7月11日（土）10:00～14:00 雨天中止
山菜を食す☆要予約 締切：6/30
（主催：自然保護団体「森戸川村」）
集合：御霊神社（長柄） 定員：10名 参加費：500円（軽食付）
平坦な道で山菜を探し、調理し食します

◎7月16日（木）13:30～15:00
無料ボイストレーニング公開レッスン
（主催：60才からの音楽教室）
会場：葉山町福祉文化会館 練習室

◎7月18日（土）9:30～12:00
木古庭地区の文化財巡り☆要予約 7/10まで受付
（主催：葉山町文化財研究会）
集合：不動橋バス停

木古庭地区の文化財を歩いて巡り、木古庭地区特有な歴史・自然・風土などを理解し、葉山の良さを実感する

◎7月18日（土）・19日（日）
自然・防災・エコ親子体験塾 / サマースクール
（主催：教育自然学研究会）☆要予約
会場：神奈川県立三浦ふれあいの村（三浦市初声）
定員：40名 参加費：500円（保険・資料代）
海・山合同ワークショップを三浦ふれあいの村で一泊二日の宿泊で実施します。パンフレットなど詳細は後日配布

◎7月20日（月・祝）10:00～12:00
津波災害・海辺の安全教室～自分の身は自分で守ろう！～
（主催：NPO 法人オシャツファミリー海洋自然体験センター）☆要予約
会場：葉山一色海岸海の家「一色ロイヤルビーチ」
定員：30組60名 対象：家族（3歳以上）・小中学生

ライフセーバーによるデモンストレーション、津波を想定して飛び込みや這い上がり、セルフディフェンス体験など

◎7月26日（日）10:00～14:00 雨天順延8月2日（日）
雑木林をASOBU。竹の食器を作ろう。食べよう!
（主催：景観まちづくり研究会・葉山）☆要予約
会場：湘南国際村入口 まみあな雑木林
対象：小中学生及びその家族 参加費：500円（軽食付）

暗い雑木林に手を入れ気持ちのいい場所に。新たな価値を作る試みです。まずは「ASOBU」ことから始めませんか

◎8月1日（土）18:30～20:30
夜の里山観察会☆要予約
（主催：葉山ホテルの会）
集合場所は予約時にお伝えします 定員：15名（先着）

満月の晩に里山の自然観察をするツアー。夜でなければ発見・体験できない谷戸の動植物を探します。

※まちづくり展交流イベントの詳細は、協会ホームページまたはまちづくり展チラシで

葉山に在る数多の貴重な自然や動植物、歴史的遺産。これらを守り継承していくための保護保全活動を行うとともに、環境や自然の大切さや葉山の歴史を次世代を担う子どもたちに伝える活動を続ける人たちがいる。

長柄・桜山古墳をまもる会

国指定史跡の長柄桜山古墳群の保護活動に協力し、郷土の歴史と文化を継承する活動の中で、逗子市と葉山町の小中学校に対して古墳の見学会を行っている。昨年は葉山小130名、池子小44名、長柄小72名、沼間小は出前授業で89名が参加した。

古墳のことは社会の教科書で学んで知っていても実際に見る機会はなかなかない。長柄桜山古墳群を自分の足で歩いて訪ねることで、国指定史跡がすぐ近くにあるという親近感と誇りを感じ、レクチャーを受けることで郷土の大切な文化財について理解を深めることができる。



ガイドの話に熱心に耳を傾ける

静かな森の中で古墳の話聞いてると想像力豊かな子どもたちはきっと、1600年以上もの、はるか昔、誰かがこの場所に同じように立っていたのかも、と歴史にロマンを感じることもたろう。時の流れを経ても、伝え残していくことの大切さを心に刻んでほしい。

葉山メダカの会

毎年6月になる

と町内4つの小学校を訪れて「メダカの出前授業」を行い、5年生の理科の授業でメダカの生態を教えている。子どもたちが



生命誕生の素晴らしさも学ぶ

ちばん夢中になるのは顕微鏡を使った卵の観察。顕微鏡をのぞきながら、「心臓がばくばく動いているよ」「こっちは目玉がある！」など、あちこちで嬉しそうな声があがり、教室は一気にヒートアップする。顕微鏡で卵を観察している真つ最中にメダカが孵化したこともあり、このときは子どもたちと一緒に教える側も大興奮した。

葉山の魅力を未来へつなげるために

メダカの生態と同時に環境保護の大切さも伝えていく。かつては野生のメダカが多くみられたのに、いまや絶滅危惧種に指定されていること、なぜそうなったのかを伝えることで、メダカだけではなく自然の中の生き物を保護する意識が生まれ、環境保護に関心を抱いてくれたら本望。出前授業でメダカの生態を目にして驚きや喜びを共感できることはなによりも嬉しく、その感動をいつまでも忘れずにいてほしいと願っている。

郷土愛から始まった

葉山ふるさと絵屏風

5月9日、上山口会館で「葉山ふるさと絵屏風」お披露目会が行われた。

上山口、木古庭町内会、近隣の山地区を所有する大和ハウス工業と関東学院大学が参加して1960年代の景観ばかりではなく、音、匂いなどの「五感の記憶」を次世代に残そうと2013年に「葉山ふるさと絵屏風プロジェクト」がスタートし今年完成した。制作にあたっては滋賀県立大学助教の上田洋平さんが提唱する「心象図法」を採用。

お年寄りのさまざまな記憶を集約し、当時の生活をありのまま一つの絵に。地域のお年寄りから風景や暮らしの様子をきいたり、地域を案内してもらったりして50年以上前の風景を地域の方々とともによみがえらせた。

絵屏風は和紙にアクリル絵の具を使用。木古庭から滝の坂隧道までが描かれていて第4曲からなる。第一編(右から「春、夏、秋、冬」とし、①稲作②畑作を中心に③家④山林と地域⑤寺、神社、小学校と地域の人々の暮らしを描いている。

制作責任者である岩澤直捷さんにお話を伺った。苦労したのは①年齢、家庭環境、郷土愛、制作への情熱が違うプロジェクトメンバーの考えを一つの方向に

導くこと。

下絵を描いてもらう関東学院の学生さんには地域文化を理解してもらうために地域の散策や人の話を聞いたり、大学に向いてレクチャーも行った。



尺寸：高さ180cm 幅360cm

30年代を中心とした風土画だから、当時の情報として確かな写真が欲しくて写真の収集はその数200枚。しかし、当時の写真は記念写真的なものが多く、働いているところ、日頃の暮らしぶりの写真がない。そこで現代の姿を撮影し、時代考証をして30年代にタイムスリップさせた。構図作りには苦労した。出来上がったなら想像以上の出来栄で自信作となった。

学生さんに教育実践の場を提供できたことはうれしいし、地元の絵師3人の方々が献身的に頑張ってくれたことに感謝している。完成したのがスタートで今後、両町内会では完成に合わせて「ふるさと絵屏風継承会」と「語りべの会」をあらたに発足、地域総解きを通じての伝統文化の発信と継承をして行くとともに小学校や地域のイベントでの公開も予定している。

7月3日から5日、「葉山まちづくり展」(福祉文化会館)でレプリカが見られる。

新店

2月28日に向原交差点に開店した魚睦。店主の陸永さんが出すきつけかけになったのは、

漁師から「葉山には魚屋がないからやってみたらどうか？」と声をかけられたこと。「じゃ、やってみようかな」と始めた。漁師の見習いもして今年で3年目。二足のわらじを履いているので大変だけど、葉山のものを食べて欲しいという思いでがんばっている。

以前から干物をやりたいと思っていたので、干物がいっぱいあるお土産屋さんに行きかけた。訪ねた日にお店に並んでいたのはアジ・サバ・ムシガレイ・サヨリ・アマダイそしてサバのみりん干し、いわしののみりん干し。

名店

石渡ラジオ店には何度も助けてもらった。洗濯機から水が漏れて洗面所が水浸しになった時すぐに来てくれた。炊飯器の内釜はたしか二度替え、内プタを止めるパッキンも新品を届けてもらった。おかげで20年以上使っている。



暮らしのつよい味方

先代である父上が昭和31年に創業し現在は兄弟二人で営業中。「ラジオ」と名前は古めかしいが最近では家電製品だけでなく、パソコンのアフターフォローにも忙しい。マウスの使い方や検索の仕方、

～出来たての美味しい干物が買える店～

おなじみのお客さんもできた。「どれができたか？」と毎日来てくれる人や「仕事でここを通る、昨日はこれを買ったんだ」という長井の男性。「見るからに美味しいそうだし」とアジの干物を買うのは、金沢八景からツツジを観に来た人。美味しいものを食べたいとの思いはみな同じ。陸永さんに将来自分の抱負を聞いてみた。「お客さんにどんなのが欲しいですか？」と聞いて作りたい。今は干物だけだが、冷凍庫、水槽など設備を整えて活魚、伊勢えびなど季節ごとに良いものを提供したい。



「睦まじく」が店名の由来

～まちの電気屋さんは今日も葉山を駆けめぐる～

ささいなことでもつまづいてしまうパソコンの身近な助っ人だ。「説明書読むより早いからね」とご謙遜。シャワートイレをつけるついでに壁紙を替えたい、手すりをつけたいなどのリフォームの相談にもなる。電気屋にできない工事は地元業者を紹介する。一人暮らしの高齢者が増えるなか、生活をサポートすることも多くなった。電子レンジの修理の帰りがけ玄関の錠前を直したり、「葉山の親に電話が通じないから見てきてほしい」と娘さんに頼まれて駆けつけると電話番号が外れていたこともあったという。「まごころとサービスを届けたい」のキャッチフレーズどおり、頼りにされてまちの電気屋さん今日も忙しい。

心新たに参拝のすずめ

月首祭(一日)と月次祭(十五日)

赤い鳥居、小さな社、こんもりとした森の奥につづく細い階段。これらは唱歌でも歌われている私たち日本人が連想する村の鎮守様の風景である。その身近である神社だが、いざ参拝となると初詣、年に一度の例大祭、厄除、初宮詣、七五三など特別な時以外にお参りする人たちは少ないだろう。あまり知られていないが、毎月節目にあたる一日と一五日に祭が行われている。

葉山の総鎮守として町内だけでなく、町外の人からも親しまれている森戸大明神では、一日に月首祭、十五日に月次祭がとりおこなわれ、毎回二十名から三十名ほどの人等が参列している。参列している人はおそらく各々の思いを抱いて訪れているのであろう。

宮司が先ず参拝者に向かって大幣で日頃の罪穢れをはらう。祝詞のあと、順番に玉串をささげお参りをする。宮司のお話があり、直会のお神酒をいただいで、神事は終了となる。

鎌倉時代に創建され、さらに現在の社殿は慶長時代に再建された建物で、「葉山町の重要文化財」に指定されている。社殿は厳かでその中に座しているだけで身が引き締まる。神様と通じるなどという大それたことは言えないが、ただ頼み

ごとをするだけでなく、心を清め、自分が生きるための決意を強める、そんな思いを自然に感じる空気がそこにはある。月首祭・月次祭は毎月朝九時から行われ誰でも参列出来るので、最初は好奇心で行くのもいいかもしれない。心を落ち着かせる場所であることに間違いはない。

最近では「神社ガール」という言葉もあり、ご朱印帳を持って全国の神社巡りをする女性がずいぶん増えてきているそうだ。パワースポットを巡るといふ楽しみ方をしていられるだろう。森戸大明神でもご朱印帳を頒布している。洒落た絵柄で、これを持って神社巡りを始めるのもよさそうだ。

夏に向けて葉山町内にある神社ではたくさんのお祭りがある。由緒ある神社にたくさんの方が訪れる光景はいつでもいい。



御朱印帳

初回はわずか2週間ほどでなくなったそうです。

